

人脈や補助金伴走支援

コンパスはJR沼津駅北口から徒歩数分の旧同信金駅北支店（3階建て）を再利用。利便性は良く、24時間利用可能だ。契約は最長4年。現在は11社が入居し、沼津市とゆかりのある20代から60代までの幅広い世代が利用している。地元拠点を構える大手製造業を定年退職した男性や、沼津高専（同市大岡）のOBらがオフィスを構える。同高専の人脈から施設には現役生の出入りも見られるほか、3階には高専のサテライトオフィスもあり若い世代が利用しやすい環境につながっている。

起業家の業種は、ものづくりのコンサルタントやウェブマーケティング、建築ソフトウェアなど多様だ。同信金の山本裕二地域創生部地域活性化担当課長は「（業種は）あえてばらばらにした。同じだと互いにけん制しあったりする」という。

■発信の場

「まずはやってみることで、動いてみることで。そうでないと何も始まらない」

企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援するセブンセンスマーケティングの宮田昌輝社長は7日、コンパ

ス3階からオンラインで講演し、起業した理由や難しさ、やりがいなどを、関心を寄せる人たちに語った。宮田氏は同高専を卒業後、筑波大在学中に起業。昨年10月、本社を都内からコンパスに移転し入居第1号となった。

同信金は先輩起業家らによるセミナーや講演を定期的開催する。施設名のコンパスには、起業への思いや方向性を決める「羅針盤」の意味も込めた。山本課長は「コロナ禍で交流は制約される。積極的に情報を発信するとともに、われわれの支援もまだまだと思っている。二ノ足をキャッチできる態勢を整えたい」と話す。

■充実ライフ

本社機能を擁する11社はいずれも沼津市とのつながりがある。ロボットAIソフトウェア開発を手掛ける「On Cio uds」の清水政行社長（47）は「沼津は生活しやすい。ライフを充実させながら仕事ができるのは大きい」。地元出身者として地域活性化に一役買いたいという。ホームページ制作などの「Easter Egg」の渡辺青代表（22）も、同高専専攻科2年で知人の山下皓大さん（22）と主力事業の今後などについて連日意見を交わす。

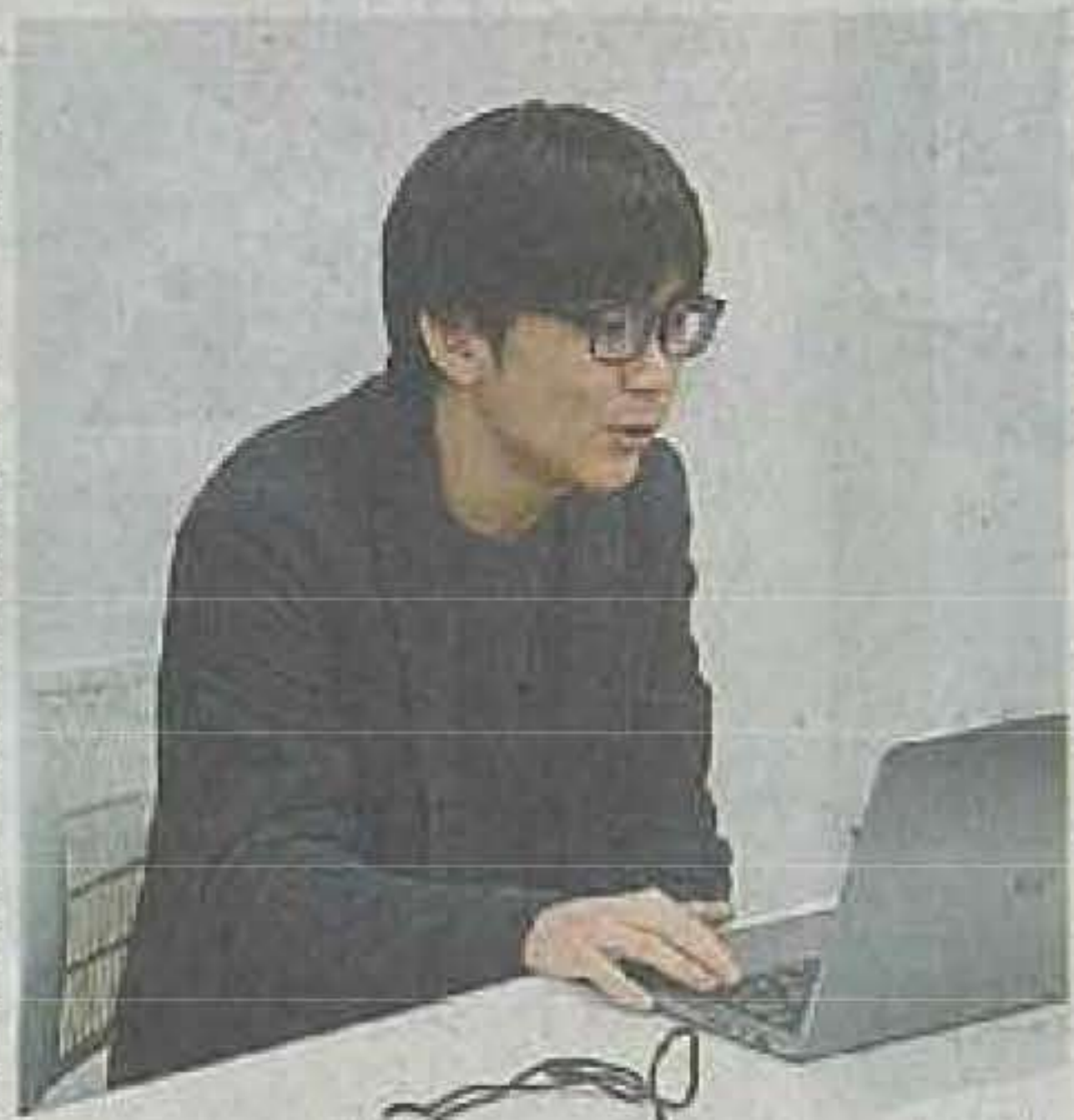
「起業を目指す仲間が多い」と渡辺代表と山下さん。山本課長は「入居待ちの状況となれば理想」と話す。

（東部総局・高橋和之）

起業家集うオフィス 活況



利用が堅調なシェアオフィスとコワーキングスペース
沼津市高島町の「ぬましんCOMPASS」



講演する宮田昌輝社長。起業に関する情報発信の場にもなっている